第3回中海自然再生協議会議事録（案）

講演会：

協議会に先立ち，「コウノトリの野生復帰と包括的再生」と題した講演会が，環境社会学が専門の総合地球環境学研究所の菊地直樹准教授を講師として，午後1時半から午後3時まで，島根県庁の会議棟で行われた．演者は1999年から豊岡市でのコウノトリの野生復帰プロジェクトに参加しており，コウノトリは瑞鳥であると同時にかつては害鳥でもあったこと，農薬などの影響により1971年に絶滅し，その後コウノトリを育む農法のような自然再生と地域再生を一体として行う包括的再生が行われ今日に至っていること，コウノトリの野生復帰には土木工事のような外科手術としての野生復帰と同時に，湿地を管理したり環境創造型農業を推進したり，あるいはエコツーリズムを創るなどの生活習慣病対策としての野生復帰が重要であることが紹介された．質疑応答では今回の講演の内容を是非著書にまとめてほしいとの要望があり，演者からはこの9月に本の出版を予定しているとの回答があった．また，出雲河川事務所長から，以前豊岡市長を招いて勉強会を行い，「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」を昨年設立したことが紹介され，協議会の事務局から，中海自然再生協議会の会長あるいは自然再生センターの理事長をこの検討協議会のメンバーに加えることを検討してほしい旨の発言があった．

協議会：

講演会に引き続き，午後3時から4時まで第3回の協議会が開催された．はじめに，窪地の環境修復実証事業の成果について，事業担当者による報告があり，窪地の覆砂材として用いている石炭灰造粒物は窒素やリンの溶出抑制は期待ほど大きくないものの，硫化水素の発生を90%以上抑える効果があること，平成28年度はこれまでの事業を継続すると同時に，第2期実施計画を策定する予定であることなどが紹介された．

次に，規約第7条により，環境省松江事務所の丸山氏とNPO法人自然再生センターの小倉氏の2名を途中参加委員として承認し，小倉氏からは2月16日に自然再生センターで行われた自然再生協議会普及のための合同ヒアリングについて報告頂いた．

その後，第1期実施計画の総括と第2期実施計画の策定について，当日の配布資料（全体構想のうちの「目標を達成するための取り組み」部分のコピー）を元に熊谷会長がこれまでの4つの実施計画の進捗状況について講評し，さらに第2期で実施すべき事項について参加委員から意見を聴取した．出された意見としては，貧酸素水塊の解消を進めてほしい，小さな窪地を完全に埋め戻してはどうか，湖岸だけでなく湖面の利活用も考えてはどうか，循環型社会の構築に向けた活動が重要である，などであった．事務局からは，協議会に先立ち開催されたアドバイザー委員会での意見の集約として，平成28年度中にこれまでの事業の総括を行い，中海の自然再生事業について広く知ってもらうため，今後広報活

動を積極的に進め，委員の意見だけでなく地域住民からも要望を汲み取るようにしたいこと，また総括の場としては 8 月 27~29 日に米子市で開催予定のラムサールシンポジウムがいい機会であるので，この日に向けて事業実施者はこれまでの活動を総括しておいてほしいとの発言があった．最後に，熊谷会長から，第 2 期実施計画についての要望等について，委員には近々アンケートをメール送付するので，回答をお願いしたいとのことで閉会した．